



複雑化・多様化する学校課題の解決や、教育環境の充実を図るためには、学校は保護者や地域などとの連携・協働体制を構築し、協力を得ることが不可欠です。重点施策7では、地域による学び支援活動の促進のために、以下の2つの取組を進めていきます。

(1) 地域人材による学校支援と学校運営への参画の促進

(2) 子どもたちの健全育成の推進

(1) 地域人材による学校支援と学校運営への参画の促進

近年、児童・生徒の状況に応じたきめ細かい学習支援や、生徒指導上の課題への対応、通学路を含む学校及び周辺地域の安全の確保など、学校が向き合う課題は複雑化・多様化しています。また、地域社会のつながりや支え合いの希薄化、子どもたちの規範意識や社会性の課題、子どもへの虐待の増加、貧困問題の深刻化など、子どもたちやその周りの状況も大きく変化しています。こうした課題を解決し、教育環境の充実を図るためには、学校は保護者や地域などとの連携・協働体制を構築し、その協力を得ることが不可欠です。

学校は、学校運営を進めるにあたって、保護者や地域などの意見を積極的に取り入れ、地域との協働を図りながら教育活動を展開していく必要があります。学校と地域とが課題をともに認識し、共通の目標やビジョンを持って、一体となって地域の子どもたちを育てていく「地域とともにある学校」の実現のために、板橋区は令和2（2020）年度に区内の全区立小・中学校で「板橋区コミュニティ・スクール（iCS）」を導入しました。



(2) 子どもたちの健全育成の推進

板橋区では、地域コミュニティをいかした青少年の健全育成活動を行っています。青少年を取り巻く状況や課題を的確に把握し、地域とともに取り組んでいます。

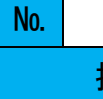

板橋区には、区内18地区それぞれに青少年健全育成地区委員会が組織され、板橋の未来を創造する青少年の健全育成や青少年を取り巻く社会環境の浄化を目的とした活動を展開しています。新型コロナウイルス感染症の影響により、一定の制限を設けたうえでの事業実施となっていますが、子どもたちや参加者の安全の確保を最優先に、「新たな日常」を踏まえ、活動を止めない工夫を凝らした事業運営に努めています。

また、子どもたちの地域活動への主体的な参加に資するジュニアリーダーを、様々な体験の場や人との関わりを通じ、将来の地域活動の担い手として育成しています。令和3（2021）年3月末時点で783名のジュニアリーダーが、地域行事に積極的に参加し、様々な体験を通じ活躍しています。こうした取組を通じ、板橋区がめざす自立・貢献・共生・創造という人間像につなげていくとともに、子どもたちの居場所・活躍の場をこれからも創出し続けていきます。

(1) 地域人材による学校支援と学校運営への参画促進

	No.	40	事業名	板橋区コミュニティ・スクール (iCS) の推進	
	担当部署		地域教育力推進課		
事業概要					
<p>「板橋区コミュニティ・スクール (iCS)」は、法に基づく学校運営協議会 (本区では、「コミュニティ・スクール委員会」と称する) と、学校支援地域本部を「両輪・協働」の関係で運営する仕組みです。「コミュニティ・スクール委員会」は、保護者・地域住民・教職員などが、学校運営や学校運営への必要な支援に関する協議を行う会議体であり、「学校支援地域本部」は、保護者や地域の人材などがボランティアとして教育活動を支援する取組です。</p>					
取組における視点					
<p>学校に多様な価値観が持ち込まれることで、すべての児童・生徒がそれぞれの個性に応じた自己肯定感や自己有用感を育むことができる環境づくりをめざします。</p>					
目標		4年間の取組			
<p>学校と地域とが共通の目標やビジョンをもち、一体となって地域の子もたちを育む「地域とともにある学校」の実現に向けて、板橋区コミュニティ・スクールの活用をめざす</p>		<p>【事務局】 「地域とともにある学校」の実現に向けて学校現場がビジョンを明確にし、iCS の活用を通じて具現化を進めることができるよう、情報発信・研修提供などを通じて、支援を行う</p> <p>【現場】 ①各学校のコミュニティ・スクール委員会での熟議を通じ、地域特性に応じた、自分たちの「地域とともにある学校」を見つけ出す ②学校支援地域本部の積極的な活動を通じて、「地域とともにある学校」の具現化を進める</p>			

(2) 子どもたちの健全育成の推進

	No.	41	事業名	青少年健全育成事業の推進	
	担当部署		地域教育力推進課		
事業概要					
<p>青少年を対象に地域特性に応じた奉仕活動、スポーツ・野外活動などの事業を実施するとともに、将来の地域活動の担い手であるジュニアリーダーの育成を行うことで、自立・貢献・共生・創造という本区がめざす人間像につなげます。</p>					
取組における視点					
<p>学校とは異なる異年齢交流や、多様な価値観を持つ地域の大人との交流を通じ、対人関係の中で社会性や豊かな人間性を育むことを重視します。</p>					
目標		4年間の取組			
<p>地域特性に応じた奉仕活動、スポーツ・野外活動などの様々な活動の機会を提供することで、自己有用感を醸成しつつ、自立・貢献・共生・創造という本区がめざす人間像につなげる</p>		<p>①地域共生社会の実現を見据え、多世代との交流や社会貢献活動を通じて、子どもたちの自己有用感や自己肯定感の高まりを促すとともに、地域社会への貢献気運を醸成する ②子どもたちの主体的な参加を促進するため、多様性の受容 (ダイバーシティ&インクルージョン) の理念を踏まえた事業展開を通じて、子どもたちの居場所や活躍の場としての魅力をより一層向上させる ③「with コロナ」を見据え、新しい日常を模索しながら、事業のより適した在り方を検討し、スポーツ大会や野外活動などの青少年健全育成地区委員会事業やジュニアリーダーの育成を実施する</p>			



板橋区コミュニティ・スクールってなに？

板橋区コミュニティ・スクール (iCS) は「**コミュニティ・スクール委員会**」と「**学校支援地域本部**」を**両輪・協働の関係で運営する仕組み**です。



学校・保護者・地域が一体となって様々な取組を行うことで、「子どもたちの豊かな学びの実現」、「地域コミュニティの活性化」、などにつなげていく取組です。

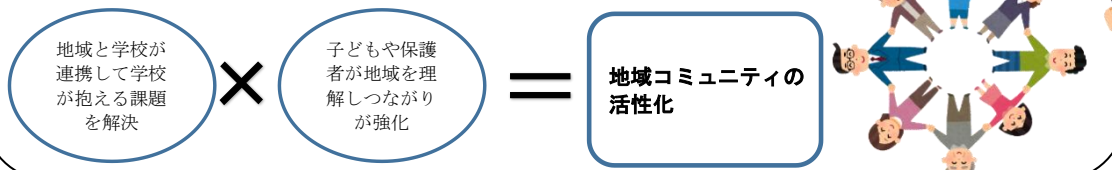
「コミュニティ・スクール委員会 (CS 委員会)」は、学校の経営方針・ビジョンを協議・承認するとともに、学校が抱えている課題 (学力・体力向上、学校行事の見直しなど) に対して、「**熟議**」を活用することで、**学校の課題に対する理解を深めながら、より多くの意見を反映させた具体的な解決策などを検討しています。**

「学校支援地域本部」は、学校の困りごとやコミュニティ・スクール委員会での発案について、**学校に対する支援活動の総合的な調整を行う地域コーディネーターを中心に学校・保護者と地域の方々が協働しながら学校の教育活動を支援する取組です。**「家庭科ボランティア」、「スポーツテスト支援」など、様々な取組が行われています。学校・保護者・地域・子どもたちそれぞれにとって魅力がある取組です。



学校・保護者と地域の方々が協働しながら取組が行われているのですね。学校の教育活動に様々な大人が関わることで、「子どもたちの豊かな学び」につながることは理解できましたが、「地域コミュニティの活性化」にはどのようにつながるのですか。

板橋区では iCS の仕組みを活用し、**地域一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」をめざします。**学校を核として「**地域の子どもは地域が育てる**」ことから地域の方々の互いのつながりが強くなり、地域コミュニティの活性化につながっていくと考えます。



次は各学校でどのような教育活動の支援が行われているのか、具体的な取組を見ていきましょう。



板橋区立小中学校iCSの具体的な取組例

上板橋第二小学校の取組

上板橋第二小学校では、保護者の方に「検温チェックボランティア」をしていただいています。令和2（2020）年度、学校からの依頼に基づいて、地域コーディネーターがボランティアを担っていただく方を募集して始まりました。「検温チェックボランティア」は、登校してきた児童の生活リズムチェックシートを確認し、体調に異常がないかチェックしています。



赤塚第三中学校の取組

赤塚第三中学校では、CS委員会での話し合いを経て、60周年を迎え外周整備がなされることに伴い、「花いっぱい運動」を実施してきました。エコポリス板橋下赤塚地区環境行動委員会、PTAとも連携し、地域の方と一緒に赤三中を花いっぱいにしようという思いのもと、ボランティアの方や生徒などが協力して、花壇やプランターの整備を行い、花の苗を植栽しました。



蓮根第二小学校の取組

蓮根第二小学校の学校支援地域本部の活動の一つであるおはなし会は、読み聞かせと図書室整備を行っています。コロナ禍での読み聞かせは、大型本やプロジェクターで投影しながら、自席で聞く子どもたちへマスク着用で実施しています。様々な制限の中、学校生活を送る子どもたちが、せめてこの時間だけは自由におはなしの世界を楽しめるように…。そんな思いも込めて、読み手も心豊かな時間を過ごしています。



桜川小学校の取組

桜川小学校のCS委員会では、「学校の現状を知ろう」をテーマに全教員を交えた熟議を行いました。教員から日頃の学校の様子を伝え、コミュニティ・スクール委員からは授業を見学した際に感じたことなどを伝えています。iCSとして、どのようなことができるか考えるきっかけづくりの機会となりました。

